

能美市 SDGs 未来都市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「暮らしやすさを日本一、実感できるまち」

第1回 のみSDGs円卓会議 令和3年7月21日



◆あいさつ

開会にあたって、能美市 SDGs 推進本部長である井出市長からは、「SDGs 未来都市に選ばれた能美市として、SDGs を積極的に推進し、『日本一、SDGs に市民が参加するまち』にしたい」とあいさつしました。



のみ SDGs 円卓会議の座長には、能美市が SDGs 推進の取組を始めた頃から様々な助言等をいただいている、北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）の山本外茂男教授に就任いただきました。

会議では、様々な立場から能美市に関わってきた7名の方に委員として勤めていただき、それぞれの「能美市の未来をより良くしたい」という思いを再確認できる時間となりました。

◆能美市 SDGs の取組について

続いて事務局より、能美市の SDGs に関する取組、円卓会議の役割、SDGs 推進体制について説明しました。

2030 年、「暮らしやすさを日本一、実感できるまち」に。

能美市は昨年度、SDGs 未来都市に選定されました。

その未来都市計画の中で、能美市が 2030 年にありたい姿として掲げたのが「暮らしやすさを日本一、実感できるまち」です。

多くの人や企業から選ばれるまち、そして市民一人ひとりがふるさと愛を持っている姿を描いています。

「暮らしやすさを日本一、実感できるまち」の実現のために下記の3点を目指していきます。

<市民力・地域力で自立したまち>

自ら考え行動し、地域の課題を解決できる市民力・地域力が向上し、地域の活動によって、温かい人と人との支えあい生まれ、子どもから高齢者、障がいのある人、外国の人など、誰もが住みよいまちになっていること。

<地域経済が好循環し、地域コミュニティが活発なまち>

多くの人を訪れ能美の魅力に触れ、交流が生まれることで地域経済が好循環し、若い世代の移住や定住が増えることで、多様な人々がつながり、地域のコミュニティがより活発になっていること。

<魅力ある「能美ブランド」を発信するまち>

モノだけではなく、モノを生み出す地域の人も含めた魅力や、能美でしか体験できないコトの魅力など、すべてを「能美ブランド」として、能美の魅力を語り、発信できる市民や能美ファンが増えていること。能美市への思いが魅力として発信され、多くの人に共感され、多くの人を訪れ、選ばれるまちとなっていること。



行政と地域が一体で SDGs を促進

能美市においても、SDGs 未来都市として、環境、社会、経済の3つの側面にかかわる様々な取り組みを行っていますが、行政だけが取り組むのでは、能美市が描くありたい姿の実現は不可能です。

地域のみなさんや、企業のみなさんと共に取り組むことで、環境、社会、経済の相乗効果を生み出し、「暮らしやすさを日本一、実感できるまち」づくりとつながると考えています。

SDGs を理解し、行動できるような市民が増え、行政と市民、企業などがパートナーとなって連携しながら地域の課題を解決し、SDGs の視点で取り組みを評価しながら、検証する仕組みを行政と地域が一体となって構築することを目指しています。

今年度の取組・のみ SDGs 推進体制について

今年度は、3つのテーマに取り組んでいきます。

- ①SDGs を身近に感じてもらえるように、様々な情報が詰まった[ホームページ](#)、SDGs の取り組み方を相談できる[窓口の設置](#)
- ②市民団体や企業などが SDGs パートナーとなって様々な地域活動を行えるような[制度の構築](#)
- ③SDGs の達成を測るものさしとして[能美市独自の指標づくり](#)

これらの取組のために、どんなことが必要なのか。また、この取組が実現したものをどのように活用していくのかを議論し検討する場が、のみ SDGs 円卓会議です。

のみ SDGs 円卓会議は、市長を本部長とする「能美市 SDGs 推進本部」の下に位置する組織となります。

行政、市民、企業・事業者、NPO、町会、町内会など様々な関係者が SDGs でつながり地域の課題を解決できるまちづくりの推進のために、立場を超えて議論する場です。

また、テーマごとに、円卓会議メンバーや専門知識がある人など必要な人をさらに交えながら、テーマの具現化を図る「専門分科会」、SDGs を広く市民へ普及し理解するきっかけとする「市民ワークショップ」を開催していく予定です。

◆意見交換

会議後半には、山本座長進行のもと、①情報発信・相談窓口の設置 ②SDGs パートナリーシップ制度の構築 ③のみ指標（能美市独自の SDGs 指標）づくりについて、どのようなことが必要か、円卓会議の委員のみなさんと意見交換を行いました。

下記に主な意見をご紹介します。

① 情報発信・ホームページや相談窓口の設置

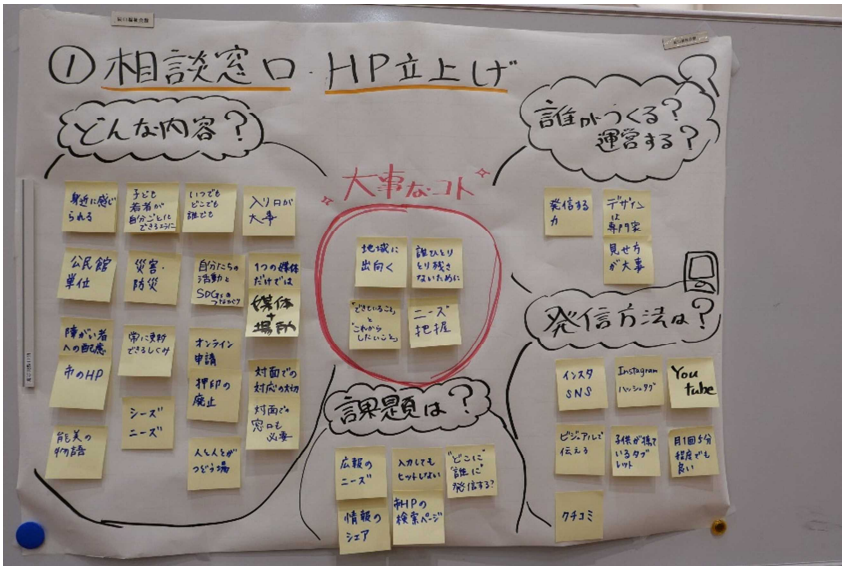
- ・SDGs を身近に感じられる工夫があると良い
- ・自分が「できていること」と「これからしたいこと」を把握できる仕組みがほしい
- ・誰一人取り残さないために、ホームページだけではなく対面の窓口や地域に直接、出向いた出前講座なども必要

②SDGs パートナリーシップ制度の構築

- ・企業と市民がダイレクトに交流できる仕組みづくりをしたい
- ・「学校」というフィールドを借りて、企業と子どもがともに学習し、プロジェクトをつくるような企画が生まれると良い
- ・能美市版の SDGs 認証制度があるとわかりやすいのではないか

③能美市独自の SDGs 指標づくり

- ・「共助」のまちづくりに向けて、数字では測れない市民の価値観、心の豊かさを測るものにしたい
- ・市民の声を直接聞いて反映し、独自性があるものにしたい
- ・市民へどう依頼し、納得感を得てもらえるか検討する必要がある



最後に山本座長から、「今回みなさんから様々な視点で貴重な意見をもらった。限られた時間の中で建設的な議論ができた。次回の円卓会議や、専門分科会でも活発な議論をお願いしたい」と締めくくり、会議は終了しました。

今回が第1回目の円卓会議でしたが、委員のみなさんには和やかな雰囲気の中で積極的に議論をしていただいた。それぞれのこれまでの取組に共感しながら、能美市のSDGs達成に向けて、思いを強めることができました。

「暮らしやすさを日本一、実感できるまち」を目指し、のみSDGs円卓会議の委員のみなさんとともに、能美市のSDGsを推進していきます。